

第8回豊岡市基本構想審議会 会議録（要旨）

開催日時 平成29年4月17日（月）午後1時30分～午後3時20分
開催場所 豊岡市役所 3階庁議室
出席委員 加藤委員、井垣委員、大槻委員、近本委員、西村委員、土野委員、宮崎委員、
上田委員、岡本委員、河口委員、河本委員、中嶋委員、中川委員
欠席委員 酒井委員、由利委員、田口委員、平峰委員
傍聴人 2名

1. 開会

2. 会長あいさつ

みなさん今日もどうぞよろしくお願ひします。事務局が一新されて、いよいよという雰囲気ですが、実はあと今日入れて2回くらい。皆さんの熱心なご議論のおかげで第8回目ですけれども、答申案ができてきました。これについて今日事務局からご説明いただいて、皆さんにご確認いただき、コメント・ご指摘をいただいて最終のものにするということになります。

3. 協議事項

- (1) 前回審議会資料との変更点
- (2) 豊岡市基本構想（答申案）
- (3) 豊岡市まちづくりの全体像

～ 事務局から説明 ～

会長 (委員)	どなたでも結構ですので、自由にご意見を願ひします。 ソフト系の言葉が私たちの目線にあわない、飾られた言葉がいっぱいあって、素直に理解しづらい。例えば、資料1の1ページ、第5章「(1) 自然との共生が徹底されている」というのがあるんですが、きちっとした言葉が使われていないのでよくわからない。その下のほうの「(4) 多様性を受け入れ、支え合うリベラルな気風がまちに満ちている」のリベラルなという片仮名が意味不明で、その後の、気風がまちに満ちていると言われても実際に生活している人にとっては程遠いというか・・・飾り言葉が独り歩きしているところが結構あって、私にはぴたっとこないんです。
会長 (委員)	なかなか難しいところですね。事務局のほうは一步踏み込んだ、良い意味で先端的な表現というか、いろんな思いをこめて使っているのではと思いますが。確かに、リベラルとかわかったようでわからないようなところもあるので、事務局のほうで普通の市民の方が読んでさっと理解してもらえるものにしてもらえますか。 このあと6地区をまわって一般市民の方に意見をもらうことになると思うんですが、資料2の12ページの(2)の下のほうに、観光においてもという行の「高

付加価値化を図り」というような言葉はとても難しいんです。他にもたくさんありますが、飾られた言葉だけが歩いているという感じです。

会長 今のご指摘は大切だと思うので、できるだけわかりやすい表現で書き直していただきたいんですが、思いをこめて書いているところもあると思うので、政府の白書に書いてあるような言葉に関しては巻末に言葉の説明を付け加えてもらうことも必要かと思うんです。両方含めて再度仕上げの段階にでも易しい文章に整理いただきたい。

事務局 文中は容易な表現としたいと思っています。また、おっしゃられるとおり、巻末になるか各ページの下になるか検討させていただきますが、用語解説についても整理したいと思います。

(委員) まちのひとが読んで素直に入るようにお願いします。

(委員) 私もそう思います。できれば小学校高学年が理解できるようなものであればうれしいです。少しは辞書をひいてもいいけど、全部が全部わからないと読む気にもなれないので。

会長 小学生高学年まではなかなか難しいかもしれませんが、中学生にはできたら読んでほしいですね。

(委員) 私も同じところで言葉が仰々しいと感じました。片仮名語ですね、リベラルもそうですが、例えば3ページに人口減少トレンドとあるのですが、そういう言葉があるのですかね？それもわからない。片仮名は意味が人によっては違うようにとられてしまうのでわかりにくいです。

5ページのめざすまちの将来像の下に6つ「小さな世界都市を実現するために達成すべき状態」とあり、状態という表現もよくわからないのですが、その下に6つの状態が出てきて、その後にも同じ内容が表で表現されていて、7ページを飛ばして、8ページから説明が来るんですが、5ページの下にこれを載せないといけないのでしょうか。将来像のあとにまちの将来像実現に向けた基本姿勢というのがあって、その後にも主要手段が出てきたほうが同じものが何回も出てくるより良いのではないのでしょうか。

会長 わかりづらくしてしまうことが計画作りをするときの盲点なのかもしれません。3つとか5つとかに整理してまとめていくのですが、それがいっぱい出るとどれがどれなのかとなるんですね。

(委員) 7ページの基本姿勢のところ、前にも1番と3番が重複すると指摘して修正しますということだったと思うのですが、やっぱり1番と3番はまだ重複しているので、いっそのこと「受け継いできたものを磨き未来に引き継ぐ」にすれば一文になるのではないのでしょうか。そして、先ほどの状態の箇所にこの基本姿勢を書いたほうがわかりやすい気がします。

会長 確かに1番と3番はおっしゃるように時間軸というか、過去から未来に向かったの軸と2番は今のそういう状況の相互関係のようなものというような感じですね。

(委員) 未来に引き継ぐのイメージ図の、「包む」もどこから出てきたのかわからないん

です。

事務局

この「包む」については、2番の多様性というところで、社会的弱者の方も全てまちとして包み込むということで・・・。

会長

社会的包摂、ソーシャルインクルージョンのことですね。

事務局

わかりにくいようでしたらまたご相談させていただきたいと思います。

(委員)

5ページの達成すべき状態が、6ページと8ページでは主要手段となっていて、同じなのか違うものなのかわからないので、同じ内容なら同じ言葉で合わせてほしいと思います。

8ページの「コウノトリも住める」の「も」の上の点は別になくていいかなと思います。

前回とかなり内容が違うのですが、一体どうなっているのでしょうか。前回の内容がほとんど消えているというか指摘したことがあまり入っていない気がします。

11ページのリベラルな気風は、「リベラル」がわからないので自由で良いし、文章の6行目の「・・・違いを乗り越えていく習慣が根付けば」については、乗り越えなくても受け入れてもらえれば良いですし、「習慣が根付けば」も毎日トレーニングみたいな表現なのでイメージが違うんです。劇的な変化という表現も出ていますが、既に多様性については始まっているので、それを日ごろから当たり前のこととして受け入れるという表現だと思います。

「組織の活力の源になります」も、源ではなくてまちの力として根付いていくものだと思います。「折り合いをつけながら」という表現も妥協案、マイナスイメージとしての表現が強いので、お互いに尊重し合って共生するまちのほうが前向きで良いかなと思います。

全体的に読むと、城崎アートセンターとか豊岡の鞆とか具体的に書いてあるのに、4(1)に関しては豊岡市だけではなくて、「日本は」という主語でも読める内容で、漠然とした精神論みたいになっているので、例えば豊岡市が取り組んでいる多文化共生のハードの部分、翻訳資料を作ったり、やさしい日本語の資料を作ったりなどいろいろな取り組みにも触れてほしいと思います。

会長

この後ろに計画として現実の議論との接点を入れることになると思うので、構想は抽象度が高くならざるを得ないと思います。ただ、表現は事務局と相談していただいて、文章化を再度していただけたらなと思います。

(委員)

12ページの下から4行目の「労働者側への分配」という表現、経営者と労働者の対立軸ではないと思うので、豊岡全体で産業の活性化がなぜ必要なのかといえば、人口減少を食い止めるためだと思うので、その要素を入れたほうが良いのではないのでしょうか。例えば、所得格差が人口減少につながっているなのでそのあたりのニュアンスとして、全体を底上げして地域の活力の維持をしていくという表現にしていればと思います。

会長

産業がなぜ大事かという暮らしを豊かにするという最終目標があって、そのためには産業と企業の活性化が不可欠だと。西村さんの言われた方向で修正をお

願いたい。

(委員) 人口減少に歯止めをかけるのはやはり教育だと思う。子供たちがこの地域で、暮らしたいというまちにできるかどうか勝負だと思います。そういう意味では13ページの表現も少し深めてほしいと思います。

会長 教育は毎回ご指摘いただく内容ですし、また、手段のところは書いてある量がばらばらですので、全体のバランスも考えて記載いただきたいです。

(委員) 文章の流れのなかで、2ページでまず長期目標ということがあるんですが、その隣に、社会潮流が列記されており、上位目的はいったん置いておいて、今後12年間のまちを目指すという構成になっているのでおかしいのではないかと思います。

会長 第2章に組み込んだほうが良いのではないかと思います。

(委員) 将来的にはいろんな課題が出てくるのであって、この12年間の課題が長期的視点の中に入っているのはおかしいのではないかと思います。

会長 長期的視点の中に課題が入っているのは違和感ということですよ。ご指摘いただいたとおりだと思いますので、第2章のどこかに入るほうが良いと思います。

(委員) 5ページの一番下は状態なのか、次のページの手段なのか、なんなのか明確にしておかないと。主要手段というよりは、将来的な姿だと思うんですが・・・。

事務局 5ページと6ページの間を整理させていただきたいとは思いますが、当初は小さな世界都市を実現するためには具体的にはこういうような状態を達成するようなものになればよいのかなと・・・。

会長 要するに豊岡市が考えている小さな世界都市とはどういうものなのか、それを説明するのがこの6つということですよ。8ページからは各項目を実現するための手段は何かということの説明されているというわけですか。

事務局 わかりづらい表現もあると思いますし、十分な整理ができていないところもありますので、また改めて皆さんのほうに・・・。

会長 豊岡市が考える小さな世界都市のイメージというか考え方として書かれているとわかりやすいかもしれませんね。

(委員) 6ページの下2桁とはどういう意味ですか。

事務局 主要手段01とか02とかという書き方をしていたんですが、直前に省いたので、それが残っていました。また書き方を改めます。

(委員) 4桁の番号とはどういう意味ですか。4桁の番号で表現する意味は何かあるのですか。

事務局 説明の仕方ですらうにしているだけですので、またわかりやすいように改めます。

(委員) 3ページの社会潮流の災害のところ、ハード整備とソフト面の充実が書かれています。これは行政としての手立てです。一番の課題は地域の防災をいかに高めるかということなので、その点はぜひ加えてほしいなと思います。前回福祉とか健康とかが抜けているという指摘があったんですが、市の3分の1が高齢者、

20年後は4割になるということで、高齢者を社会の一員として社会参画を働きかけるようなものが必要なのではないかと思います。若年者だけでは社会は支えられないと思うので、項目の中に入れてほしい。また、3ページの(3)の後半も「人口減少の要因そのものに手をつけ」とさらっと書いてますが、具体的な記載が必要なのではないのでしょうか。

会長
事務局

具体的に何を考えているんですか。

地方創生総合戦略で記載しているのは、豊岡の人口減少の一番の要因として、10代の若者が出て行って20代で帰ってくる若者が少ないこと。なおかつ、生まれる子供の数が少ないなかで、未婚率が上昇しているということが起きていて、少ない夫婦からなおかつ少ない子どもということで人口減少が起きているという説明をしているので、このように示させていただいています。

(委員) それはあくまで表面的な要因であって、その先は難しいと思うので、敢えてぼやっとさせているのかなど。何で若者が帰ってこないのか、やりたい仕事というのが見つからないということとか、要因をどのように認識しているのかということですよ。

(委員) 訂正させていただくと未婚率は上がっているんですが、1世帯の子供の出生率は上がっています。

会長

要因そのものに「手をつけ」という表現が誤解を招きそうな気がする。人口減少や社会現象は複雑な要因が絡んで生じている。政府は数値だけもってこいというような計画づくりをされているようなんですが、そんな単純なものではないですよ。仕事づくりが大切と言いつつ、仕事づくりができない背後の要因が複雑に絡み合っていて、手をつけというのは、どこに手をつけるのかと。例えば大阪のように子供のいる世帯に補助金をつけることをやっても、根本的に大阪にファミリーが来ない理由が背後にはあって、そういう補助金の使い方をすると役割が終わった人たちはまたどんどん出て行くということがわかっているわけです。この表現は重要だけど、表面的にそこだけ手をつけたら良いととられかねないので、もう少し表現を考えていただければありがたいです。

高齢者の方の扱いも含めて、共助の話も、社会潮流のところで言及していただくようお願いしたいと思います。

(委員) 5ページですが、「めざすまちの将来像」と基本目標の戦略目的と同じなのか違うのか定義がわかりにくいんです。これを読んだ人はめざすまちの将来像は小さな世界都市と捉えてしまうんですが、実際には戦略目標ですよ。小さな世界都市を目標に市民が本当に取り組んでいくのだろうかという疑問です。6ページの表現だとわかりやすい。

会長

表現の精査をお願いします。

(委員)

状態と手段のところは、おそらく状態だと思うのですが、そこにできたら7番目としてみんなが幸せを感じられるまちということを入れてほしい。表現に生活観が抜けていると思うんです。例えば、地方においても人々が幸福度の高い生活を営んでいるということを7番に入れるなど、人口減少の問題や福祉、子どもた

- ちがここで暮らしたいと思えることを入れていただきたい。
- 会長 幸福度の高い生活というのは、この1番から6番までを実施することで達成できる暮らしのイメージですよね。
- (委員) 人口減少の問題や子どもたちが帰ってきてここで暮らしたいと思うようなことをしっかり入れておかないといけない。
- 会長 小さな世界都市という表現は、都市としてどうなるのかというマクロであって、幸福度の高い暮らしというのは市民一人ひとりのミクロな表現であって、それが隠れているわけですよね。それを前面に出したほうがよいのではというご指摘だと思います。
- 事務局 先ほどの7章のところについて資料3をお配りしていますが、今までの総合計画は全てのことを網羅的にやっていきますよという作り方であって、今回の基本構想は12年間の目標を豊岡が世界で輝くことを集中的にやっていくためにどのようなものが必要であるかを6項目で立てている。6項目はこれまで取り組んできた実績のあるものから、今後の可能性も含めて、基本構想の柱として6つを仮定させていただいているんです。市民の方々の暮らしを支えるものについては第7章に委ねており、いろいろな計画があるなかで、基本構想とは離して整理しています。
- (委員) 人口減少問題は一番重要な問題だから、それに対応した項目をここに入れるべきではないかと言っているんです。
- 事務局 地方創生総合戦略を見ていただければわかりますが、人口減少問題については仕事、子育て、教育など、いろんな分野の内容が入っています。
- (委員) 全体を読まないとその核心にたどりつかない。
- 会長 事務局で、ミクロな視点から、市民の幸福についての表現をご検討いただけますか。
- (委員) 漠然とした幸福ではなくて、新しい価値観に基づく幸福と言うことで、豊岡で暮らすという決意というかを表現いただければ。
- (委員) 子どもたちに帰ってきてもらうには教育からということで、小中一環の教育とか、ふるさと教育の問題とあわせて、帰ってきたい豊岡とするための育て方とか。世帯当たりの出生率はあがっているということであれば、夫婦になるあたりからできていなのだと思う。絶対的な人数が増えないので、基本的にいろんなことに踏み込まないと人口減少は抑制できないと思う。
- 会長 人口減少社会について組み込んでいくというご指摘かと思うのですが、構想なのでやや一般化・抽象化した表現となっているのですが、事務局のほうでそのあたりを踏まえご検討いただければと思います。
- (委員) 3ページの(5)のところ、(1)から(4)はこれで良いですが、(5)のAIの内容がちょっと大きすぎるのではないのでしょうか。12年くらいでここまで劇的に変化するのでしょうか。
- 会長 AIに関してはいろんな意見があり、インドではすでに何千人もが職を奪われているという報道もありますが、一方で、日本でどうかというのはわからないとこ

ろですよ。

(委員) これが 13 ページの子供たちの 2 つ目につながっているの、それを書くために敢えてこれを挙げている気もしますが……。もう少し表現を変えても良いのではというのが 1 つです。10 ページの 3 (1) 4 行目は、「子どもたちが豊岡で世界と出会う」の誤りだと思います。

(委員) 13 ページの 6 の項目をしっかりと書いていただきたいのと、「身に付けた知識や技術が急速に陳腐化」というのが気が重くなる表現で、あまりにもマイナスなイメージなので、もう少し子どもたちの明るい未来についても書いていただけたら。私はここで子育てができたことを感謝しています。大阪から来たのですが、大阪だったら 3 人も生んで育てられたかと思えば無理だったと思うんです。

会長 変わらぬ技術というのがあると思うんですよ、この地域のなかで生きるというか。対して大学で教えているような技術は変わると思うので、同じ技術というのでもいろいろな内容があるので、わかりやすい誤解のない表現にさせていただけたらと思います。

(委員) 文章的に基本構想とは何かというのが、読まないとわからない。2 ページは冒頭に説明がされていてわかりやすいんですが、4 ページの表現は読まないわからないんです。冒頭にわかるような説明を入れるほうがわかりやすいんじゃないでしょうか。

会長 初めて読んだ方にもわかるような編集の技術ですよ。

(委員) 3 ページ (5) の「不要な職種」とか「取り換え不可能」とか、人に対する表現としてはどうかと思うのですが。

会長 一般市民に読んでいただくものなので、ちょっと表現に注意いただきたいですね。

(委員) AI は AI で良いんですが、それよりもインターネットというかネット社会のほうが問題としては大きいので、そのことを先に書いて、それと連動した AI ですよ。

会長 改めて項目を立てるほどでもないですが、人工知能のところ、ネット社会と連動する展開があるということが書いてあればよいのでは。

(委員) 産業面でも大きな影響があって、どんどんものを作る必要がなくなっているんです。豊岡の産業界でも非常に大きな問題になっているんですよ。

会長 IoT などの動きがこれからどんどん激的に社会を変えていくと思うので、そのあたりも加筆していただければ。

事務局 グローバル化と一体的に考えたいとも思ったのですが、あえて分けて書いています。今の情報等の記載のところをもう少しわかりやすく加筆させていただきます。

(委員) 11 ページの (2) 「さまざまなつながりの中に、それぞれの役割が用意されている」の中のコミュニティについても、4 月 1 日から始まったコミュニティ政策のなかでどのように進めていくのかということまで書いていただきたい。市街地区長会の会長をしているんですが、コミュニティ 31 地区のなかで 20 地区、まちな

なかであっても準限界集落がでてきたんです。今後指定管理に移行するなかで、コミュニティがどのような役割を担っていくのかについても示してほしいと思います。

会長 先ほどの共助のところともつながりますが、豊岡の状況をここにもう少し加筆いただけたらと思います。ひとつの項目についてA4で1ページくらいにまとめて書いていただければと思います。

(委員) さっきも言ったのですが、小さな世界都市という目標が市民に受け入れられるのかなという気がしています。例えば、永楽館、城崎アートセンターは何度も出てくるが、戦略目標だとわかれば理解できる。具体的なものと抽象的なものが混じっている。戦略目標であるということと目指すべき将来像との関係のあたりを市民に丁寧に説明しないと誤解を生じるのかなと思います。

(委員) 13ページについて記載内容が少ないということですが、私は海のそばで子どもを育てたいという思いがあって豊岡へきたので、豊岡ならではの自然とかそういう子どもの育て方を記載しても良いのではないかと感じました。

会長 宮崎さんのような事例などもコラムなどで表現しても良いんじゃないでしょうか。この会議のメンバーを事例として了解を得られれば、そういうのも良いのではないのでしょうか。

(委員) キッズワイルドの取り組みであったり、そういうのを入れても良いんじゃないかと思います。

(委員) 子どものところに世界と出会うというようなこととか。

(委員) 田んぼの学校とか、子どもがそういうもので生まれているという表現。

会長 読んでもらえるということと、わかりやすさとが必要ですよね。

(4) 今後のスケジュール (予定)

～ 事務局から説明 ～

4. その他

なし

5. 閉会